『公共施設の更新問題』に立ち向かうために

総務常任委員会　委員長　竹内典子

当委員会に付託された議案5件と意見書案1件の審査を行いました。

◎市税条例等の一部改正

法人市民税法人税割の税率の引き下げに伴い、東近江市ではどの程度の減収が見込まれるのかとの質問があり、23年度をベースとして試算した場合、約2億2千万円の減収見込みとの答弁がありました。

賛成多数

◎集団的自衛権行使を容認する解釈改憲を行わないことを求める意見書

「憲法解釈が閣議決定により変わってしまうということは暴論である」との意見や、「現在の情勢と意見書の内容について、一致していない点が多々見受けられる」「様々な世論調査がされているが、解釈改憲を行うことへの賛成が過半数を超えていない」など、賛成・反対の立場から各々意見を述べ、採決を行いました。

他4議案　全委員賛成

行政視察

7月23日、岡山県真庭市を訪問。地球温暖化が問題になる中、地元事業者が行っていたバイオマスの取り組みに、観光事業や地域づくりの発信などを加え、顔のみえる産業観光として、18年からバイオマスツアー真庭を始められています。

当委員会もこのツアーに参加し、木質ペレットやチップを製造・利用している施設を見学。

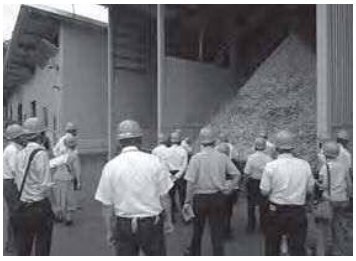
当市でも循環型社会をめざす取り組みの必要性を感じました。

24日、公共施設に関する取り組みについて、鳥取市を訪問。

合併時に各自治体が保有していた公共施設を引き継いだため、今後、一斉に建て替えや修繕などが集中することから、公共施設を供給、品質、財務の3つの視点から分析した、公共施設白書を26年2月に作成されました。

また、経営感覚を持った効率的な財産経営を行うため、庁内にファシリティマネジメント推進プロジェクトチームを設置し、職員研修を行って共通認識を図るなど、全庁的に取り組まれています。

当市においても、道路・橋梁をはじめとする公共施設の早急な現状把握と維持管理計画が必要であることを強く感じました。


木質ペレット製造工場

能登川支所・コミセン工事に4億円を追加補正

福祉教育こども常任委員会　委員長　市木徹

当委員会に付託された議案13件の審査を行いました。

◎一般会計補正予算

大きな予算不足が発覚し、問題となっていた能登川支所・コミセン整備工事に係る追加補正が含まれており、特に次の3点について確認を行いました。

①今後も大型公共事業が予定されていることから、審議の中で時系列に沿って問題点を再確認するとともに、今回のような問題が再発しないように、人材の確保及び組織の機能向上に努められたい。

②今後の事業執行にあたり、議会との信頼関係を維持し、組織としての議会対応のあり方を再認識されるよう職員に周知徹底されたい。

③債務負担行為の4億円については、当初設計の機能を維持しつつ内容を精査した上で提出された予算であり、地域や市民の期待に応えられる整備工事の内容となっていることを確認しました。

全委員賛成

◎他12議案　全委員賛成

◎請願1件　賛成少数により不採択

行政視察

学力向上に向けた先進的な取り組み事例として7月14日、淡路市を訪問。

15日、高知チャレンジ塾における学習支援について、高知市を訪問。生活困窮世帯の中学生の学力向上のために始められた事業ですが、市内の全生徒を対象としておられ、基礎学力の向上が図られていました。

同日、陶病院の運営について、香川県綾川町を訪問。全国最高齢町長のビジョンが形になった複合施設で、明るくて機能的な施設は、療養に訪れる人々に大きな癒しになっていました。

なお、11年度から黒字経営を続けられています。

16日、子育て応援都市宣言について、相生市を訪問。

いずれの訪問先も先進的な取り組みに加えて、首長が強いリーダシップを発揮することで、職員が自信と夢をもって事業に取り組めることにより、成果が現れていることを実感しました。

これらの調査事項を参考に、今後のまちづくりに反映できるよう、議会活動に取り組みます。

陶病院内に設置されている病児保育室